

石岡市立小中学校統合再編計画地区住民説明会（東地区公民館） 要旨

日時 令和2年1月23日（木） 午後7時から午後8時15分

場所 東地区公民館 大会議室

執行部 児島教育長，豊崎部長，吉澤次長，倉本参事，神谷参事兼教育総務課長，関指導室長，細谷副参事，小川課長補佐，海東係長

参加者 6名

次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 職員紹介
4. 統合再編計画に係る説明

資料

- ・石岡市立小中学校統合再編計画
- ・主な自由意見（アンケート）

5. 質疑応答
6. その他
7. 閉会

～～～ 次第に沿って4.統合再編計画に係る説明まで行なう ～～～

（参加者）

まだ整理できていないので、思いついたことで質問したいと思うのですが、まず、生徒の数の推移というのがあるのですが、各学校で創立からずっと今までの児童生徒数というのがあるのでしょうか。

複式学級は今子供たちが減ったからできたというような印象がどうしても強いのですが、もともと三村小・関川小というのは、複式学級はいつごろからあったのでしょうか。そういった資料というのはあるのでしょうか。あれば知りたいと思うんです。

それと複式学級というと、どうしても学力が落ちてしまうんじゃないかという印象があると思うんですけども、必ずしも複式学級というのは子どもたちの成長発達にとって問題ばかりではなくて、むしろ長所がたくさんあると聞いたんですね。全国的に学校数でみると、日本の場合は小さい学校が多いと思うんですね。その中で複式学級をやられているという実態はたくさんあると思います。ここに至って複式学級を解消すると聞くと、「そうだ、そうだ」と思いがちだと思うんですけども、複式学級の教育的な有意義性について教育的な視点で教育委員会としてどのようにお考えになられているかという事をお伺いしたいと

思うんです。

私の感想なんですけれども、小美玉市もかすみがうら市も、茨城町もそれぞれ小中学校を統合してきましたよ。石岡はある意味で残してきたと思うんですよね。ただ、それはそれで石岡市のすごい特徴なんだと思います。地域に学校が残ってるという事は、いろいろと少子化とか地域づくりとか言われる中で、逆に言うと、石岡をもっと売り出すというか、特色を出すとかこのように教育に力を入れているんですよ、こんなところまでちゃんと学校があるんですよ、そういうふうにお金をかけてやっているんですよという事は、プラスになるんじゃないかなと思うんです。そういう発想ができないのかどうか。

他の自治体は統合が進んで学校少なくなってきたてしまってますけれども、石岡はいろんな特殊性があって旧村が合併したってこともあったものですから、なかなか統合再編はできないという背景があったと思うんですけれども、それはそれなりの地域のそれぞれの特徴があって地域の学校があってそれを育ててきたという経緯があると思うんで、そういう経緯を踏まえて特色の根差し方というのを考えもいいんじゃないかとかと思います。

(事務局)

ありがとうございました。一応手元にある資料としては、昭和 45 年度以降の各学校の児童生徒数とクラス数は、全体では把握しているものはございます。関川小学校では複式学級が確実に発生している年度としましては、60 人程度になっている年度でございますけれども、22 年度から 5 クラスという事で、三村小学校はそのもう少し後で、100 人規模がもう少ししばらく続いておりますので、複式学級となりうるのは、全体の生徒数で 60 人から 70 人台になった時点で各学年 10 人くらいになりますので、その時点で複式が発生してくる可能性があるという事で、今後も 50 人あるいは 40 人、関川小では 30 人台になりますので今後も継続していくと。三村小ですと 100 人を切ったのが平成 25 年度くらいからでしょうかね、24 年度までは 100 人はいましたので、その後複式が急速に進んでいったということになります。

(参加者)

その前（昭和 45 年度以前）の創立からののはあるんですか。

(事務局)

創立となりますと、今手元にあるのが昭和 45 年度からなので、それ以前のは、手元に把握してなくて、私自身も現存しているものは、確認はしておりません。

(参加者)

各学校には沿革のようなものがあるのでわかると思うんですけど、60 人程度では複式になるのはわかるのですが、おそらく、創立からずっと学校別に見ていくと、かなり少ない時期もあったんじゃないかと思うんです。戦後のベビーブームがあって、第二次ベビーブームの子どもたちがピークになる年代だと思うんです。それ以前の段階では、複式がされていたんじゃないかと私は思うんです。今になって問題になるんじゃなくて、当時は自然と複式

学級が行われていたんじゃないかなという事が知りたいんです。

わからなければ、今はいいです。今に始まったことではないんじゃないかなというのが私の想像なんです。だから資料が見たいんです。私も調べてみますので。

もう一つの質問の複式学級については教育的にどうなのかなという点についてはどうなのかなと。そういった見解を持ってらっしゃるのかなと。

(事務局)

複式学級の解消と聞くと否定的に聞こえてしまうところで申し訳ないんですけども、教育委員会としましては、複式学級に関して否定的に捉えているわけではなくて、もちろん、一人ひとりの実態を捉えたうえで細やかな指導ができるというふうに捉えております。

ただ、私たちは学力というものをテストで測れる学力だけではなくて、未来を担う子どもたちに身に付けてほしい「生きる力」というよう捉えをしておりますので、先程の資料の4ページにあります、3番の学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方の上から5行目にありますが、「石岡市においては多様な学習活動や手段活動の展開を図る」とあります。こちらは自分とは違った考え方や価値観を持ったたくさんの友達と一緒に学ぶことで、そういった力を身に付けることができると考えております。

(参加者)

たくさん子どもたちと、いろんな子どもたちがいるという事を知って、社会性を育てるという事はすごく大事な事なんで、それを否定することではないんですね、ただ、複式学級でも細やかな指導ができるという点を認められたという事はすごく大事なことと思います。で、この前聞いた複式学級の子どもたちがどういうところが優れているかという、たまたま知り合いの子が複式学級のある小学校にいて、「友達の名前はみんな知ってるの」って聞いたたら、「1年生から6年生までみんな知ってる」って言うんです。「全部わかってる」って言うんです。「他の子もみんなわかっているの」って聞いたたら、「わかっている」って言うんです。私は1学年3クラスある学校の卒業生なんだけれども、6年間経ってやっと顔と名前が一致したくらいかなと思うんです。中学校に行ったら8クラスだから、ほとんど今になってみるとあまり覚えていないですよ。ただ、すごく大事なことは、社会性を育てると言っても、基本的に名前が知っていて、どういう子かという事が認識されていないと社会性は育たないと思うんですよ。それは規模が大きければいいというものではないと思うんです。例えば、小規模な学校でも1年生から6年生の集団の中で、全員の名前を知ってるってことはすごいことだと思う。当然名前を知ってるってことは、この子はこんな子だとか、この子はどうゆう子だとかってことも理解できてる。だから、複式学級のある学校に行っている子どもたちというのは、困難の時の復元力というのがすごいんだそうなんです。いろんな壁にぶつかったときの復元力というのがあんだそうなんです。複式学級の子供の方が、普通学級の子供よりも高いんだそうなんです。おそらく親御さんも心配しているのは、大きな学校に行ったら、そういった点で、いじめがあったり、面倒見てもらえないんじゃないかと心配があると思うんですけど、複式学級の子どもたちというのは、お互いをよく知っているし、先生

とのつながりも密接というのもあるので、お互いが支えているというのもすごくあるんです。否定的に複式学級になると、いじめがあった時にクラス替えができないとか、そういう面で見るとじゃなくて、お互いに寄り添うような、逃げの場所があったり理解しているから、相互理解ができるから、うまい人間関係が作れるというかね、そういうのがあって子どもたちの復元力というのがつくと思うんです。そこをもう少し、深く考えていく必要があると思うんですよ。表面的に大きければいいみたいな発想は、もう今の時代には合わないですよ。今あるものをどう生かしていくか。これは確かにお金がかかります。もう校舎も古くなっているし、維持していくのも大変だと思うのですが、将来を担う石岡を背負って子どもたちに、もうちょっと我々は真剣にお金をつぎ込んでやっていくべきじゃないかなと思うんです。せつかく残っているのにもったいないですよ。そういった発想は持てないですかね。かすみがうら市も出島の方はほとんど一つになってしまった。親御さんが一番心配しているのが、複式になったら学力が下がるんじゃないかとか、クラス替えができないとまずいんじゃないかとかですが、決してそんなことはないんだという事が基本的にベースとして認識すべきなんじゃないかと思います。

(事務局・部長)

いろいろな意見があると思うんですが、「複式＝ダメだ」という事ではないとは思っています。しかし、4-7で資料のアンケートがあるかと思うんですが、その中でもやはりある程度の規模が必要と、2クラス、小学生2クラス以上ですね、そういう事で答申も受けましたし、庁舎内の計画でもその通りだという事で策定したわけなんです。付属資料4の中に「お子さんの通学する学校または卒業した学校について統合再編は必要ですか」という質問があるのですが、アの「すぐに必要」というのは全体で11.1%になってます。10人に1人という事になってますが、小学校別で見ていただきたいんですが、高浜小、すぐに必要41.1%、三村小23.1%、関川小42.4%、北小52%、瓦会小23.5%、葦穂小24.6%、吉生小29.6%と今あるのが複式学級のある小学校でございます。良い面悪い面ある中で、保護者の方は、複式学級の良い部分が伝わっていない部分もあるかもしれませんが、保護者としては非常に危機感を持っている、最高は北小の52%。全体の5倍です。北小学校については、来年4月に入る子供の数、9人とこの表では予想されているんですが、実状は4人くらいになりそうです。もし仮に私がその場にいるとしたらですね、男女2人ずつで、男の子だったとすると、もう一人の子と仲良くしなければいけないんですが、友達も選べない状況というのも現実的に一方ではあるという事もございますので、いろいろな面から考えていきたいと思いますが、この数字に関しては、やはり複式学級がある小学校の保護者の方は危機感をもっているのかなというように読み取れると思っております。

(参加者)

北小の話は、私も知り合いがいて、杉並小に通わせてるような話も聞きます。確かにそのような規模になってしまいますと、そこで頑張ろうというようなことにはならないかと思うので、それはそれでやむを得ないと思うんですよね。本当に一緒になりたいという事であ

れば、大いにそれはそれで進めてもらって結構だと思うんです。機械的にダメとかいいとかではなくて、もともと北小学校というのは府中小学校の分校としてあったわけで、5年生からは府中小に来ていたんですよ。そういった関係で、府中小とは非常に密接な関係があり、おそらく親も府中小出身の方も多と思います。そういう中で、地域の学校として残り得ないという事であれば、せっかく校舎新しく作ったわけなんですけど、やむを得ないし、そういう選択をするのであれば、それもありませんかと思えます。ただその過程において、教育的なことで議論がされてなってきたのかどうかという事は、もう一回問いかけてみる必要があると思うんです。むしろ、「大きい学校がいい」と言われているから、もっと町場の学校に送って行こうかみたいな事で、現実にはほかの小学校に連れてきている子もいます。そういう事を見ると、我々も仕方ないと感じる部分もあります。ただ、だからすぐに統合という事ではなくて、もっと教育的な議論をきちんとして踏まえていく中で父兄の方が判断されるのであれば、それはそれで地域の事ですからやむを得ないと思えます。

(事務局)

ありがとうございます。今後説明会を開催していく中で、やはり複式学級が接しているところの片方の部分の説明だけではなくて、メリットとデメリット両方あるということと、地理的な状況など、どちらも話をして理解を深めてもらったうえでの統合になればなと思いますので、人数が少なくても丁寧に回数を重ねて対話していった進められれば、一番いいかなと私たちも思っているところです。ありがとうございます。

(参加者)

通学距離についてお伺いしたいんですけども、通学距離が小学校でおおむね4 km以内、中学校で6 km以内が理想的という事で書いてあるんですが、6 ページですか、例えば統合再編計画によりますと、高浜小・三村小・関川小が南小に統合されるという計画ですよ。これを見ますと南小学校に行くのに通学距離が10 km程度になる地域があるというように書いてあるんですが、それはスクールバスなどで送り迎えすることになるということでしょうか。小学校1年生に上がった場合には7歳です、毎日天気のいい日ばかりではなくて、雨の日もあれば風の強い日もあれば、自然というのは、特に今温暖化で厳しい状況に立たされていますよね。そういう時に小学校低学年が10 km以上も歩いていくなんていうのは不可能なんですよ。その辺をどのように考えているのか、そうするとスクールバスになると思うんです。スクールバスになった場合に、今度は経済的な負担がかかりますよね。そういった場合に、今まで経済的な負担をせず通えていたところ、父兄がその分捻出するわけなんですよ。その経済的負担が生活に困窮している方もいらっしゃるんで、そういう事も考えて、総合的にどういうふうな考えでいらっしゃるのか、その辺をお聞きしたいです。

(事務局)

小学校にあつては4 kmと中学校にあつては6 kmというような一つの指針が、かねてから文部科学省の指針と適正配置の部分で一定の距離が示されておりますけれども、統合再編にあたっては、小学生であっても自力ではなかなか難しいところもありますし、中学校

であっても防犯上の観点からいろいろな問題があります。統合再編にあってはケースによってはスクールバスを出しましてその通学の安全を図るという事で考えているところがございます。具体的な路線や停留所というのは、統合検討委員会で委員さん皆さん出てもらって、そのルートやその選定は考えていくような形になります。

費用負担につきましては、現在、市内で利用されている方には3,000円の負担を頂いているところです。これまで中学校の統合再編をしてきたわけで、3,000円の負担頂いているわけなんですけど、今後は小学校についても同じようなスクールバスが利用される方は、小学校から中学校までの9年間のスクールバスという事も考え得るわけなんです。そういった部分では、今回アンケート調査の中でも費用負担の問題を心配されている方、それから一人ではなくて二人三人いらっしゃる方に、今後新たな費用負担が発生するようなことを心配されているところもあります。今後説明会を重ねているなかでは、あるいは統合委員会の中では同じような要望がなされることはあるかと思いますが、今現在では3,000円の負担で統一的に考えておきまして、そこから先というのは今の段階で明言できませんけれども、なんらかの意見を取りまとめるような形で対策を打つ必要があるかどうかかなと思いますので、保護者との対話の中でいろいろ模索していくしかないかなと思います。

(参加者)

それからの話なんですけども、一人3,000円ですよ。二人いけば6,000円、三人いけば9,000円、つまり約1万円の負担、費用がかかるという事になるわけですよ。今少子高齢化で子どもさんがどんどん減っていくという中で、父兄の負担が大きくなると、今までなかったものが出ていくという、負担が大きくなるわけですよ。国の政策というのは、子ども一人に対する福利という面で、一人でも多く産んでいただきたいというような考え方ですよ。父兄の負担を過度にかけるようなやり方というのは、逆行するんじゃないかと思うんですよ。だから、その辺はどのように取り組んでいくのか、言葉だけではなくて、少子化に対する取り組み。将来石岡市を背負っていく人、大きく言えば国を背負っていく人、子どもたちを育成していくためにそのような費用をどのように見ていくのかという事ですね。

(参加者)

周辺の自治体でスクールバスを利用しているところで、無料のところってありますか。茨城町なんかは限定的に無料にしていたと思うんですが。

(事務局)

無料化されているところは、他市町村では直近で統合が進んでいるところでは、鉾田市ですね。行方市なんかは少し早く統合が進んではいたんですけども、基本3,000円でスタートして、子育て支援の一環として、第2子第3子へ段階的に2,000円、1,000円というような形で施策を打っている市町村もあります。また、無料化することで、既存の徒歩で通学していた方とのバランスというものもありまして、費用負担する方と、もともとその学区にいる方の距離の関係も課題になってくるかなと思います。費用負担することでそういった比べ合うようなこともなかったところが、今度新たな元々遠い距離を歩いていた方々への支援

というの考えていかなければならない部分もありますので、無料化というのも課題があるのかなとも思います。

(事務局・部長)

この質問はよく出る質問で、やはり今まで通学に費用がかかっていない方が統合によりかかるという事で、関心事だと思えますよね。今、石岡市でもともと、小井戸とかもそうです、東小まではバスで通っています。また路線バスを利用して定期券で来て、定期券の一部補助という事でお金を出している小学校とかがいくつかあります。統合によって八郷中学校ですね、あとは旧城南中学校の方々に今補助を出している。ただ、石岡市では1億円くらいバス代がかかっております。そのうち800万円から900万円、約1割弱程度というのを、3,000円負担という事でいただいているところでございます。これから統合再編が小学校に増えれば、もっとバス代はかかることとなります。これは市の事情ですけれども、今おっしゃったように、国の方も保育料を無料にしているわけですね、子どもを産みやすい状況にしようという事で動いてますし、石岡市にしても子供がいる家庭への家賃補助や、給食費についても、三人目のお子さんには無料にする等をしております。ご存知の通り石岡市だけではなく人口減少をほとんどの自治体がしてますから、そういった政策で、それぞれの市町村で考えて子育て支援の対策をしているのが現状です。その中で、先程もありましたとおり、鉾田市は行政の都合でやった、もともとところは別として、行政の都合でやった統合についてはバス代無料にしますという事で無料になっています。ですから、子育て支援の一環にはなると思えますので、その中に石岡市でもそういった対象が増える、9年間になるわけですから、そういったところも含めて全庁的な問題。教育委員会だけではなくて、子育て支援の中で提案していきながら、どのように財源確保も必要な部分もあると思えますので、その辺りを検討していくようなこととなるのかなというように思います。そこら辺は政策の判断、またトップの判断もあると思えますし、市民の要望、いろいろあると思えますので、そういうのを市全体で、部全体的に考えなければならぬ問題かなと、そのように思っております。

(参加者)

城南地区と石岡中学校の統合の時も、約3年間統合検討委員会の委員をやらせていただいていたんですが、今回のアンケートの中にも書いてあるように、城南地区公民館でいろいろ話があったかと思うんですけれども、委員以外の保護者たち、実直な意見を聞くとしてそのような場を設けたんじゃないかと思うんですけれども、やはり、ほぼ今回のアンケートの内容通りだと思うんです。通学についてその時は中学生でしたので小学生とはまた別のものがあると思うのですが、その時点で最初に出たのは、帰る時の防犯灯、街路灯をしっかりしていただきたいというのがありました。あと、大きな学校に行くと不安や何かもあると思うんです。あの時は城南中学校の先生が石岡中学校の校長になったという事で、今でも年に4、5回お伺いしているんですが、いい雰囲気は生まれているんじゃないかと思うんです。防犯灯含めて子どもたちの事ですから明るくしてもらいたいという事で言っておりました。

あと、先程も話がありましたけれども、バスの負担ですね。これも考慮する必要があると思うんです。前は中学校の統合でしたので、制服とかカバンとかも、3年生とかはもういいという事だったんですが、新しく石岡中学校生になられる方には、それを何らかの形で免除して、金銭的な面でね、免除していただけたというような形で進んだと思っております。やはり小学生ですと、親御さんたちは心配しますので、そちらの方面で十分に協議を図っていただければと思います。

私は南台二丁目なんで、南小にはよくうかがっておるんですけども、ただ、40 数年経っていますので、現在プールもいろいろ直したりしてます。玉田校長先生ともよくお話するのですが、施設の老朽化は心配だという事です。いずれにしましても子どもたちの安全面で助成金等々の形をしっかりといただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。城南中の時もバスを降りてからの徒歩の部分で、真っ暗なようなところを意見いただきまして、街路灯を 30 基ほど追加でつけさせていただいて、対応したところですよ。小学生においても、時間は早いですが、冬は暗いところもありますので、検討してやっていく事かなと思います。制服の補助 1/2 しましたけれども、小学生においてもジャージですとか体操服とかそういうところもありますので、ご意見聞きながらやっていければなと思っております。

(参加者)

石岡中学校でもですね、城南地区を含めた規模の運動会やその他の集まりなども含めて、駐車場等々とか、正門入って行って右側のところが狭くてとか、いろいろ学校の改善も行って、当時の P T A 会長さんも、今は退任されておりますが、納得した形なんです。南小学校においても、例えば正面入って右側に学童施設があって、その駐車場もあるんですが、全体的にはやはり広い場所ではないと思うんです。そういう面も含めて、受け入れる施設としてのいろいろな検討をしていただければと思っております。あと、やはり南小は元々田んぼだったところなんですね。当時いろいろ地域の方々が砂利を入れたりいろいろとやってくれたりしたんですが、運動会の時など何かとありますので、ハード面の方も頑張ってもらっていただければと思います。

(参加者)

先程街灯の話も出たんですけども、歩道ですかね。こちらから高浜方面に行くんですけども、その間歩道がないんですね、そういうところも一緒に整備していただければなと思います。通勤などで利用しているんですけども、たまに反射鏡等を付けずに歩いている方もいるんです。そういう方もいるので、そういったところも含めて整備していただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。今取り組んでいるものの一つで「通学路の安全プログラム」とい

うような国土交通省が絡んだような取り組みがあります。どこの市町村でもやっております。学校区単位で点検見回りをして、危険箇所を洗い出す。必要があれば補助なんかを要望するような、一つのプログラムという事で取り組んでおりますので、改めてそういった通学路が路肩のないようなところをランドセル背負って端を歩くようなところで、危険なところをピックアップしながら要望をしていくような、県道であれば県の方に、国道であれば国の方にといい事で働きかけをしていくような制度でございますので、そういった部分を含めてご要望を取りまとめながらやっていきたいと思っております。あ

(参加者)

最近レジディエンスというような言葉を聞くのですが、先週、石岡の教育を語る会が主催された学習講演会会で和光大学の女性の講師がいらっしゃって、再編成の事で話をしたのですが、その中で後半、最後の部分ですかね、レジディエンスというについて話をして、簡単に言うと、逆境に負けない力というように私は解釈したのですが、詳しくはスマホで検索すればすぐ出てきますので、そちらが正解となります。今のいじめの問題とか、非常に大事だと思うんですが、個人的にはいじめを克服する方策としてはレジディエンスかなと私は思うんです。たぶん文部科学省とかは研究チームを作ってやっていると思うんですよ、新聞に載ってるんだから。県はどうかかわからないですけど、石岡市教育委員会ではそのレジディエンスということをぜひ、指導主事でも教育部長でもいいので、ある程度把握していただいて動静を掴んで学校の再編に取り入れていくと、より先が見える再編計画になると思っております。よろしくお願ひします。

(事務局)

ありがとうございます。私自身レジディエンスというものを把握しておりませんでしたので、内容につきましては確認しておきます。

(参加者)

教員をしておりまして、このような場で発言していいのか、少し緊張してしまうのですが。娘が南小学校に入学するの予定なので、興味を持って参加させていただきました。

保護者の立場として一番心配なのは、いろいろな地域から子供が集まってくるという事で、保護者同士の顔が見えにくいとか、地域性がわかりづらいというのも、保護者としては不安なところかなと思ひます。子供同士も地域によってそれぞれ特性とかあると思うので、そういったところの関係性を繋いでいく事も、これは教員としてなんですけれども、とても大事な事なのかなと思ひます。保護者としては、積極的に地域の人に学校に入ってきていただくというのは、一番いいかなと思ひておりまして、広い範囲の学区の対象となる学校だからこそ、コミュニティスクールのような形で、地域の方が積極的に学校に参加してもらって、その中で関係性を繋いでいただくとか、その中で教員とも理解していただくとか、そういった思い切った新しい学校づくりというものに、私自身も関与していきたいなど、教員としても保護者としても思ひております。

もう一点ですが、子どもの関係性のところについては、やはり大きな学校に飛び込むとい

う事で、心配する子どもさんも保護者の方も多いと思うので、新しくできる統合された学校というところでは、例えば1年生の1学期とか新年度には、人間関係づくりを学級活動の時間に必ず何時間取るようにしますとか、あとは社会性を育むようなプログラムを石岡市として取り組んで発信していくようなことで、どうも統廃合と聞くと撤退性みたいな感じでマイナスイメージになってしまいがちですけれども、「こんな新しい学校、素敵な学校があってコミュニティとか保護者同士も繋がって行くんだよ」というような前向きな学校づくりにしていけるような形で考えていただきたいし、私自身も力を注ぎたくて、そういった前向きな話に今後なってほしいと思っておりますので、ただ感じたことを述べさせていただいただけなんですけど、そういった形で力を尽くしていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。

(参加者)

統合にあたりまして、石岡中学校で行われたのは、交流会みたいなものを事前にやっていたという認識があります。南小学校の場合ですけど、すでに東小学校とですけども、学校新聞ですか、ああいうのを入れてすぐ、職員室の前に貼ってあったりとかね、そういう交流は、南小学校の関連で多分やっているんでしょうけど、学校新聞のようなA4のワンペーパーそういうのを掲示したりなんかして、事前に先生の方もやったりなんかしているのですが、やはりこのまま進んでいくと統合という形かなと思うんですが、事前にコミュニケーションをとるような子どもたちの交流ですか、持ち回りでやったりいろいろあると思うんですが、小さいところは体育館が小さいのでね、みんなで集まるというのがなかなか難しければ二部制にするなどして、そういうのを取り入れて行ければ、子どもたちも馴染んで事前にスムーズな移行ができるかと思っておりますので、お願いできればと思います。

(事務局)

ありがとうございます。これまでの小小連携のような形で、例えばこれから統合が進めば、統合年度前から、そういった交流事業をやっていければなと思えますし、やってくことによって消極的な統合ではなくて、積極的な統合を望みたいというような、わくわくするような統合を感じながら、統合を進めていきたいというようなご意見もいただいておりますので、その辺は注意してやっていきたいなと思っています。ありがとうございます。

(事務局・教育長)

今日はいろいろな意見、要望、そして議論ができたことを非常に価値があったと思っております。複式学級がある学校、それから単学級の学校、複数学級のある学校、それぞれもちろん良さがあります、長所もあります、強みもあります、特色もあります。こういった特色がさらに発展していくと魅力のある学校に繋がると思えます。そのように私は捉えております。これからいろいろな議論を深めていくなかで、より良い子供の学習の場としての機能をどう高めていくか、そういったことを議論していくとさらにいいのかなと思っています。も

ちろん今日いろいろな意見が出ました。心配することです。通学路の問題、費用の問題、安全安心の問題、当然ですよ、そして施設設備の問題、保護者同士の繋がりをどうしていくんだ、それぞれの学校では、精神的な学校が支柱であったりとか、それからコミュニティの中心であったり、これも十分理解しております。これまで培った歴史と伝統がございます。これをどういうふうにしてお互いに議論をしながらそれをさらにより良いものに高めていけるのか。それをこれから、皆さんとともに歩んで、とにかくいい学校、魅力ある学校、先程もありましたいじめの問題ということも出てきました。これは絶対にあってはならないわけなんですよ。それをするためには、学校再編となった時には、みんなでどうやってこれをなくすように努めていこうか、教室と地域を繋げるような教室を創るためにはどうしたらいいだろうか、そういうところまで議論が深まってくると、さらにいいのかなと私は思っております。原点は子供のためにどうあるかという視点でこれから話し合いをもって、いい方向に向けて行けたらなと、私は思っておりますので、今後ともどうぞご支援を賜りながら、あるいはお叱りを受けることも我々はあるかと思えます。それでも結構です。とにかくいい学校づくりを目指してやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。